

連携・協働のカ・タ・チ

令和3年5月7日発行 福島県教育庁会津教育事務所



西会津中でオンライン開催 コロナ禍における運動指導実践

令和3年3月4日、会津大学短期大学部講師で、運動生理学やトレーニング科学を専門とする渡部琢也先生による「コロナ禍における運動実践」が西会津中学校2年生を対象に行われました。

これは、会津大学短期大学部がコロナ禍における運動不足の解消や、運動する機会の創出を目的に行っている事業です。小・中学生や高齢者まで、様々な世代ごとに作成された運動メニューに基づき、学校や福祉施設での運動を行っています。

この日は、会津大学短期大学部の校舎と西会津中学校多目的ホールをオンラインでつなぎ、運動指導が行われました。

渡部先生の自己紹介の後、子どもたちが前屈で体がどのくらい曲がるのか、また、目を閉じたままの片足立ちを何秒間できるのかをそれぞれ確認しました。



【渡部先生から説明を受ける子どもたち】

続いて、短期大学部の学生が、柔軟性や体幹を整えるための「くの字運動」や「ラディアン」など、限られたスペースでも気軽にできる運動の実技指導を行いました。実技指導が終わると、再度、前屈と目を閉じたままの片足立ちを行いました。運動前と運動後を比較し、身体感覚の違いを体感しました。



【片足立ちをして運動前の感覚を確認】



【大学生によるオンラインの運動指導】

子どもたちは、部屋の中などのちょっとしたスペースで取り組める運動を行うことにより、柔軟性を高めたり、体幹を整えたりすることを学びました。



【体幹を整える効果がある「ラディアン」を体験】

裏面を御覧ください

(この取組をコーディネートした西会津町公民館の御担当の方からお話をお聞きしました！)

「公民館」の新たな役割と 社会教育関係職員に求められる 資質・能力 ～コーディネートカ～

全国的に地域コミュニティが衰退する中で求められている公民館の新たな役割の一つに、

地域学校協働活動の拠点としての役割

があります。この役割を果たすために、公民館など社会教育に携わる職員に求められるのが調整者としての能力です。

人と人、人と学習情報、人と学習資源、人と学習機会をつなぎ、学校の教育活動の充実と地域の活性化を図るコーディネートの能力が一層求められています。

社会教育関係職員に求められる資質・能力

1 学習課題把握と企画立案能力

(幅広い視野と探究心)

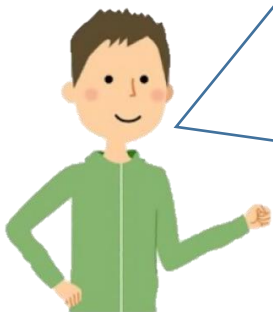
2 コミュニケーション能力

(組織化援助の能力)

3 調整者としての能力

(コーディネートする能力)

人、人と人
人と学習情報
人と学習資源
人と学習機会



西会津町公民館
塚原一雄さんのお話

会津短大の渡部先生との関わりは、昨年スポーツ少年団指導者講習会の講師を引き受けていただいたことが始まりでした。その後、町駅伝チームの研修会に足を運んでいただいた際に、これまで課題としていた子供の運動不足対策に力を入れようということになりました。そして、町の状況について話をする中で提案いただいたのが本事業です。

実施までの期間は1カ月もありませんでしたので、どのように進めるべきか苦慮しましたが、西会津中はICT環境が充実し、生徒がオンライン授業等に慣れていることもあり、体育の授業にオンラインで実施するというので、快く引き受けられました。

ICTの横文字が苦手で、未だガラ携アナログ派の私ですが、令和3年度事業も皆さんにお世話になりながら「つなぎのピース」となって子供達の体力向上と町のスポーツ振興に取り組んでいきたいと思えます。

西会津町公民館は、コロナ禍における運動不足解消という「課題」を解決するために、会津大学短期大学部と西会津中学校をつなぐ調整者として、地域学校協働活動の拠点としての機能を十分に果たしています！